

もみじ



県立広島病院 082-254-1818(代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

連携医療機関のご紹介

今回は、東区東蟹屋町にて病児保育室も併設されている、『ますだ小児科』増田 宏先生です。



増田院長

医療法人 あおぞら ますだ小児科

〒732-0055 広島市東区東蟹屋町 10-21
電話 / 082-568-2828
院長 / 増田 宏
診療科目 / 小児科



外観

○これまでの歩みについて教えてください。

私は広島市東区上温品で育ち、広島大学附属高校を経て広島大学医学部に進みました。高校生の頃は研究職に憧れていて、大学でも基礎研究に関わりたと思っていました。ただ、当時の医学部はどれも臨床教育に力を入れていて、学生時代は臨床を中心に学ぶことになりました。卒業後は東京女子医科大学日本心臓血圧研究所で、小児心臓病の臨床を学びながら、ラットの心筋細胞を用いた電気生理の研究に取り組みました。その後、アメリカのシンシナチ大学で研究員として2年間働き、研究の現場を経験しました。

でも続けていくうちに、「自分は研究より臨床のほうが向いている」と感じるようになり、帰国後は広島大学病院や土谷総合病院で小児心臓病の診療に携わってきました。総合病院で専門的な医療を行う大切さを学ぶ一方で、地域で子どもたちやご家族と長く関わり、信頼関係を作りながら支える医療もすごく大事なと思うようになりました。そうした思いから41歳で開業し、そこから25年、地域で診療を続けています。

○診療上の工夫や、貴院の特徴を教えてください。

診療では、子どもに多い腹痛を、軽いものと早めの対応が必要なものとでしっかり見分けるために、「エコーを聴診器のように使う」つもりで高性能の超音波機器を積極

的に使っています。また、地域の子育てを少しでも支えたいと思って、開業当初から行政の協力をいただき病児保育室も設置しています。さらに、不登校のお子さんや育児に悩む親御さんの力になれるよう、公認心理師が常駐してカウンセリングやプレイセラピーを行っています。小さい頃から見ているお子さんだと、性格や背景も分かっているので、より細やかな対応ができるのも当院の強みだと思っています。

○県病院はどんなところですか？

県病院にはいつも助けられています。急性虫垂炎などの急性腹症のときは小児外科に真っ先に相談しますし、緊急時も本当に速やかに対応して下さるので感謝しかありません。腎臓病や内分泌の病気は小児科で快く受け入れていただいていた、地域の子どもたちを支える心強い後方病院だと感じています。今後も、地域の中で子どもたちとご家族が安心して過ごせるよう、できることを丁寧に続けていきたいと思っています。

【取材後記】

一目でわかるドイツ風の建築の医院は、患児たちには、子ども時代の特別な記憶として残ることと思いました。増田先生には、病児保育を併設、心理職の雇用など、総合的にケアすることの大切さを、たくさんお教えいただきました。今後とも当院との連携を宜しくお願いいたします。

迎春



新年あけまして

おめでとございませす

皆さまにとって、健やかで穏やかな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

さて昨今の医療を取り巻く環境は大きく変化し、人手不足に加えて、人件費、物価や診療材料費の高騰に診療報酬が追いつかず、病院経営もかつてないほど厳しい局面を迎えています。こうした状況の中でも、地域の皆さんの命と健康を守るという使命に変わりはありません。限られた資源の中でも質の高い医療を提供できるよう、職員一丸となって努力を重ねており、高度急性期医療の提供、救急医療の体制強化、地域連携の推進など、地域に根ざした医療の実現に向けて、日々挑戦を続けています。そして本年も、地域の皆さんにとって「なくてはならない病院」であり続けられるよう、職員一同、心をひとつにして取り組んでまいります。どうぞ変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和八年 元旦

県立広島病院 院長
板本 敏行

県立広島病院からのお知らせ

がん医療従事者研修会

開催日 令和8年 1月13日(火)
時間 18:00~19:30
場所 県立広島病院 中央棟2階 講堂及びZOOM開催
テーマ がんのリハビリテーション・栄養
演者 副院長(兼) 栄養管理科 主任部長/真次 康弘
リハビリテーション科 主任部長/中西 徹
栄養管理科 主任/川崎 育美
対象 医療従事者及びその関係者
問合せ先 総務課管理係(担当/安原)
☎082-254-1818
(内線/4271)



1月のがんサロン

開催日時 令和8年 1月21日(水) 14:00~15:00
場所 新東棟2階 研修室及びオンライン
テーマ 『がんゲノム医療について』
講師 ゲノム診療科/土井 美帆子 医師
対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
当院での受診歴は問いません
問合せ先 がん相談支援センター
☎082-256-3561
hphchiikirenkei@hpho.jp



二次元コードからも
参加申込できます!

生殖医療科の胚培養士からのメッセージ

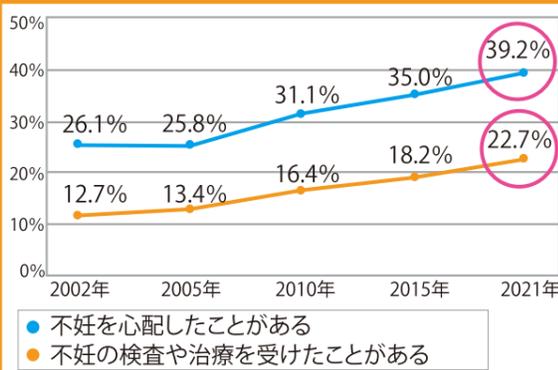
不妊治療について

生殖医療科で行う不妊治療は、妊娠を希望するものの、自然妊娠が難しい場合に受ける治療です。現在、日本国内の夫婦の 22.7%、約 4.4 組に 1 組が不妊の検査や治療を受けたことがあり、その割合は高まっています。(右図：グラフ)

① 約 4.4 組に 1 組

不妊を心配したことがある夫婦は 39.2%で、夫婦全体の約 2.6 組に 1 組の割合になります。また、実際に不妊の検査や治療を受けたことがある(または現在受けている)夫婦は全体の約 4.4 組に 1 組の割合になり、その割合は高まっています。

不妊の検査や治療を受けたことがある夫婦の場合



生殖補助医療 (ART: Assisted Reproductive Technology) について

◎生殖医療科では、不妊治療と不育治療、さらに妊孕性温存治療を行っています。

一般不妊治療で妊娠に至らない場合や、妊娠の可能性が極めて低いと判断される場合には ART 治療の適応となります。(右図：青色)

ART 治療とは、卵子や精子などを体外に取り出して体外受精を行い、受精卵(胚ともいいます)を子宮に移植する治療法です。令和 4 年度、これまで自費診療であった ART 治療が保険適用となりました。生まれた赤ちゃん 10 人のうち 1 人が ART 治療のサポートを受けて誕生しています。(右図：グラフ)

※令和 5 年は 8.5 人のうち 1 人(2025 年 8 月 29 日の日本産科婦人科学会の報告より)

一方、不妊治療ではありませんが、若年のがん患者に対して、抗がん剤治療の影響で卵子や精子の受精する力が低下あるいは無くなってしまうのを回避するために、抗がん剤治療の前に卵子や精子、あるいは受精卵(場合によっては卵巣)を凍結して保管する妊孕性温存治療も当院は積極的に行っています。

① 約 10 人に 1 人

2022 年には 77,206 人が生殖補助医療により誕生しており、これは全出生児(770,759 人)の 10.0%に当たり、約 10 人に 1 人の割合になり、年々その割合は高まっています。

生殖医療科で行う検査や治療 ※青色は ART 治療

不妊・不育治療	一般不妊検査	人工授精	着床前遺伝学的検査
	一般不妊治療	精液検査・凍結	
	婦人科手術	体外受精	卵子・胚凍結
妊孕性温存	卵巣摘出(移植)手術	精子凍結	卵巣凍結
		体外受精	卵子・胚凍結

全出生時に占める生殖補助医療による出生時の割合



胚培養士(エンブリオロジスト)について

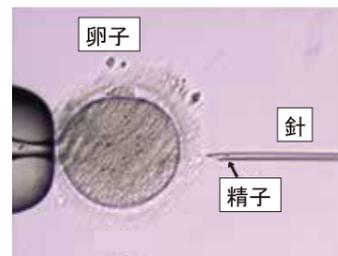
生殖医療科では、医師、看護師、医療事務(MC含む)と、我々胚培養士が従事しています。胚培養士は、ART 治療の中心的役割を果たしていますが、現在国家資格はありません。日本卵子学会が認定する生殖補助医療胚培養士という資格があります。受験資格はさまざまですが、大学で生物学を専攻した者や大学院で生物学の研究を行っていた者、臨床検査技師などが目指すことができます。胚培養士の学会である日本臨床エンブリオロジスト学会でも紹介しています。(https://embryology.jp/)

当施設の胚培養士は、学会の理事および副理事長を務め、国家資格化を目指して取り組んでいます。



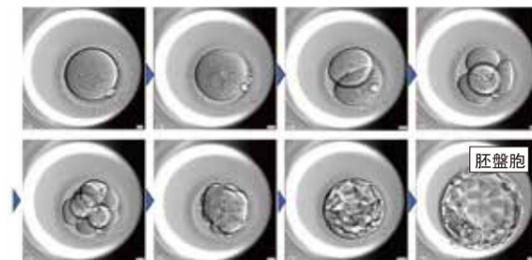
体外受精 - 胚移植 (IVF-ET) 治療について

体外受精には大きく分けると 2 種類の方法があります。一つは精液の中から元気に運動している精子を集めて、採卵して体外に取り出した卵子と培養液の中で合わせていく方法です。もう一つは顕微授精で、顕微鏡でみながら細い針を用いて卵子の中に精子を直接入れて受精させる方法です。



《顕微授精》

受精卵は最長で 6 日間ほど培養が可能です。よく育った受精卵は胚盤胞(はいばんほう)とよばれる状態になります。受精卵は子宮に移植し、妊娠を期待します。移植しなかった受精卵は凍結して液体窒素中で保管することができます。これらを胚培養士が担当しています。



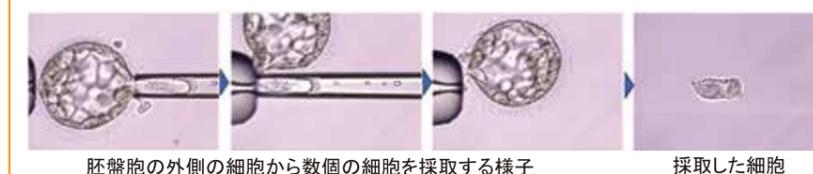
《培養中の受精卵(直径0.1~0.2mm)が育つ様子》

着床前遺伝学的検査について

近年、受精卵から細胞を数個採取し、それらの細胞の染色体の数などを調べ、移植に適した受精卵かどうかを検査することができるようになりました。

今のところ保険診療との併用が難しい先進医療ではありますが、必要とする患者様に対しては積極的に行っております。受精卵から細胞を採取し検査に出す操作を胚培養士が担当しています。

着床前遺伝子検査 (PGT) の細胞生検



胚盤胞の外側の細胞から数個の細胞を採取する様子

採取した細胞

まとめ

日々胚培養士は、クリーンルーム内で顕微鏡をのぞきながら卵子や精子を扱い、体外受精や受精卵を育てる仕事をしています。

生殖医療科の裏方ではありますが、患者説明会や体外受精の結果のご報告、胚移植を行うご夫婦への説明などで患者様にお会いすることがあります。お気軽にお声掛けいただくと嬉しく思います。よろしくお願いいたします。



実体顕微鏡を用いて卵子を扱っています

生検を行っています

液体窒素タンクをのぞいています

詳しくはこちらのサイトもご覧ください



「医療の改善活動」全国大会で最優秀賞を受賞しました!

第 26 回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 北九州で、当院の 2 部署が最優秀賞を受賞しました。今年度の全国大会は『医療の DX と共に歩む改善活動』をテーマに開催され、全国の医療・介護施設から 124 チームが参加しました。全チームから 20 チームが優秀な活動として表彰され、当院の発表 2 チームが受賞することができました。大会では、自施設の改善活動を紹介するとともに、他施設で行われた医療の改善活動を知ることができました。



北九州の会場前にて

緊急入院における入院要請から入床までの受け入れ時間の低減 南 4 病棟
看護師長における時間外勤務申請処理時間の低減 看護部 / 医療安全管理部